

東部ネット 第31回定例会議事録

2023年1月7日（土）14:00-16:00 三島本町タワー 第1会議室

参加者（7名）：虎谷・久木野・石井・佐野由美子・古橋・香川・西村

※メッセージのみ：山口、相田

【各団体からの報告（発表順）】

1. 佐野由美子（裾野市国際交流協会）

- 日本語教室：年末は日本語ゲームなどで楽しむ交流会を実施。1月の年初は毎年恒例で書き初めを行う。秋頃から学習者は減少傾向だが、仕事をしているスリランカの方とそのご家族を中心に熱心に学習している。
- 1月22日（日）「国際交流フェア in すその」（裾野市民文化センター）を開催
<https://www.sofa-jp.org/>
- 2月11日（土） 13:00～「英語スピーチコンテスト・日本語スピーチ」開催（裾野市生涯学習センター）。各中学校から生徒が参加する英語スピーチコンテストと外国人の日本語スピーチ。

2. 古橋哉子（静岡県国際交流協会）

- 1月21日（土）「令和4年度 静岡県における地域日本語教育推進セミナー（静岡県 日本語 ボランティアセミナー 2023）」開催。参加は現在キャンセル待ち。
内容は、「地域日本語教育、静岡県モデル日本語教室事業等、静岡県国際交流協会の外国
国
につながる高校生を対象とした日本語及び進路支援の取り組み」
<http://www.sir.or.jp/news/detail/id=4358>
- ウクライナ避難民を対象とした日本語支援の実施（清水町、御殿場、富士）。令和5年
ども継続実施予定。戦争が長期化し、先が見えない中での支援の難しさ（個別の事情や
考え方の違い、在留資格の延長問題、子どもの教育、メンタル不安定、生活費・仕事の
問題等々）はあるが、日本語習得状況は順調。

3. 久木野和暁（伊豆の国市 日本語話そう会）

- 2022年11月27日 「日本語スピーチコンテスト」を中伊豆ライオンズクラブ主催で
開催。6人がスピーチを披露し、第1回目としては成功。
- 「日本語話そう会」の参加学習者はここ1年ほど毎回1～2名。企業等に案内したが、
コロナの影響や学習の意欲が低いことなどから集まっていない。様子を見ながら実施し
ていく。
- 芋掘り、稲刈りイベントを実施。合わせて10数名の外国人が参加。

4. 香川勉（あいうえおの会）

- 「あいうえおの会」月2回（日曜日）三島市中郷文化プラザ（無料）にて開催。会の代表は三島市在住のホップさん（ベトナム）。登録学習者21名（ベトナム、インドネシア、スリランカ、タイ）。毎回7～8名の学習者と支援者が参加。中郷文化プラザのイベントにも参加。地元のメディアにもとりあげてもらった。
- 地域の垣根を超えた取り組みに発展。支援者（ボランティア）は函南、教材・経費は伊豆の国市、開催場所は三島市。日本語話そう会、にほん語かいわ会と連携。
- 課題
 - ①学習者が増えたことによる社会的責任、学習者のニーズの多様性への対応、ボランティアの教育力の限界などを考えると、何でもやれるわけではないので、どのような会にしていくかを検討する必要がある。
 - ②会が継続する仕組みづくり、人と運営をどうするかが課題。ボランティア頼みでは難しい面がある。のびっこクラブなどを参考に学んでいる。

5. 西村久美子（Grandeur Global Academy 沼津校）

- 国の日本語施策としての日本語教育機関認定校制度及び日本語教師の国家資格化への対応。
- 令和4年度文化庁日本語教育大会「日本語教育の参照枠」を活用した教育モデル開発の現状と展望 —生活、就労、留学の三つの分野を中心に—に参加
※日本語教育参照枠（下記リンク先参照）
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/hokoku/pdf/93476801_01.pdf
- 留学生以外の、地域在住外国人学習者ニーズが増。就職などを目的に4技能の習得やJLPT・N2取得を目指すケース。外国人児童生徒（虎谷さんと連携）や呼び寄せ希望者の在留資格相談（行政書士と連携）。
- 高校生のための日本語支援に協力。

6. 山口美奈子（にほん語かいわ会）メッセージを司会者虎谷さんが代読

本日出席予定でしたが、年末より勤務先でコロナ感染者がクラスター化して現在濃厚接触者含めると半数に、検査こそ陰性ですが、100%ではないので、今日は欠席させていただきます。

大仁のにほん語かいわ会は12月29日、1月5日各木曜日は休みとしました。来週から通常通り始まる予定であります。

去年はコロナ禍に休んだことが引き金になったり、出入国緩和で学習者が帰国したり1～2名の時期もありましたが、

10月頃より、引越しなどで新しい学習者が増えインドネシア、ベトナム、チリ、コロンビア、フィリピンなど毎回10名程度を迎えて活動しました。

芋掘り、日本語スピーチコンテスト、忘年茶話会など徐々にイベントなども行っております。年明けには新年～年度内でイベント(餅つき)などを考えております。スピーチコンテストでは、当日まで発表者の出入りが落ち着かずハラハラしましたが、教室ボランティアやLINKの皆様のご協力を得て、発表者6名からも発表出来て日本人に知ってもらえて良かった。スポンサーのライオンズクラブからは継続していけると良いとの言葉を頂きました。当日は富士山日本語学校の講師の方や新聞者、発表者事業主、など多方面にアピール出来ました。全て含め50名弱の出席になりました。

現在は離婚を考えている方からの今後の住むところの相談と事業者から東京近郊進出の相談を受けており、行政や行政書士などへの繋ぎなど、出来る範囲内でアドバイスしています。

7. 虎谷千里 (沼津国際交流協会、沼津親子日本語ひろば 他)

- 沼津国際交流協会にほんご教室：ALTを中心に毎回10名前後参加。毎回1～2名の新規入会があるが定着しにくい。
- NICE イベント関係：ミングリングパーティー実施、スピーチコンテストは15名参加(キャンセルなし)。1月28日は書き初め。2月11日はボランティア勉強会開催。
- 親子にほんごひろば：第五地区センター、今沢地区センターにて実施。第五地区センターも、午前中に時間変更。
- JICE：カリキュラムがN4までに変更。
- 児童生徒支援員：新しい児童生徒が増えている。学年を下げての入学は定着傾向。

8. 石井千恵子 (のびっこクラブみしま 他)

- クリスマスイベントを実施。
- コロナの期間オンラインでの支援、対面に戻って参加者が増加。毎回新入生がいる。
- 未就学児は親にみてもらうようにしている。
- ボランティア大学生について：日大のサークル「アモール」が解散してしまったが、代わりに様々な大学の大学生が関わってくれるようになった。ただし、試験の時期などはお休み。
- 児童生徒は学校での指導が基本。それができているとのびっこでの支援もスムーズに行える。のびっこは「居場所」であって「塾」ではない。
- ボランティアができることの限界があるので、行政の取り組みを期待。市議への働きかけや、市長に要望書の提出を実施。ボランティア団体が束になることで可能性が広がる。

9. 相田孝光（東部ネット代表、NICE、のびっこ） 事前メール

最近あった個別事例の報告と、その際に各講師が取った行動などについて感じたことです。教室の活動原則による教え方、対応に不満を持つ、特定の学習者への対応についてです。

具体的には虎谷さんにお聞きいただくとわかりやすいかと思います。

状況としましては、その学習者がある日の教室において、担当講師の教え方が自分の学びたいことと合わないと言って学習を拒否し、担当講師はそれを受けて退室を黙認した。それに対して他の講師が放っておけず色々に対応した、ということがありました。なお拒否自体は2回目でした。その時に感じた課題などです。

- ・退室黙認について受付は判断でそれを支持したが、放っておけず別の対応をした方がいたことについて、そもそもそういった特異な状況の処置について、最終的な判断を誰がどのようにするべきか？またそれを予め決めておくべきか？
- ・担当講師の判断は覆えされた形になるが、そのように扱われてよいか？
- ・教室で決められた範囲以外のことを、どこまで教えることを許容するか？またそれによって他の講師に余計な迷惑をかけないことを、どのように考慮すべきか。

その後の部会でも議論が盛り上がり、私は毎度のこといつも話しすぎますので、意見は3割位に抑えておきましたが、上記のことやそれ以外にもたくさん思うことがありました。

よろしければ皆さんのご意見などもうかがえればと思います。

以上